

## 授 業 科 目 の 概 要

（大学院環境情報学研究科 都市生活学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
共通 科目	Business Presentations	<p>この科目においては、日常の企業活動等において、口頭や文面において意思伝達を英語で行えるようにするための心構えから、効果的な練習方法の紹介、実践事例を用いてビジネスプレゼンテーション技術の基礎的必要事項を習得してもらう。</p> <p>①意思伝達を英語で行えるようにするための心構えから、効果的な練習方法の紹介 ②実践事例を用いてビジネスプレゼンテーション技術の基礎的必要事項を習得（企業のビジネスシーンを対象とした事例の活用）</p>		
	Academic Presentations	<p>この科目においては、国際学会等の場におけるにおいて、口頭や文面において意思伝達を英語で行えるようにするための心構えから、研究論文の英語による作成、研究内容の英語による発表や質問・討議などを、実践事例を用いてアカデミックプレゼンテーション技術の基礎的必要事項を習得してもらう。</p> <p>①研究発表等を英語で行えるようにするための基礎から、効果的な練習方法の紹介 ②実践事例を用いてアカデミックプレゼンテーション技術の基礎的必要事項を習得</p>		
専門 科目	総論	都市プランニング論		
	都市経営・経済	経営戦略特論	<p>都市計画、都市政策の策定は勿論、住宅、オフィスをはじめとした建築物、そして都市文化の構成要素ともいべき諸商品（その売り方も含む）の開発は、国際的競争を前提に、革新性のあるアイデアによって戦略的に実施されなければならない。</p> <p>最新の経営戦略における理論を学びながら、これを都市生活場面、都市という市場そのものの中で活用できる能力を身につけることを目指している。</p> <p>経営戦略策定、戦略的なものの考え方をする上での、コンセプト、ツール、分析例、ケースを踏まえて、企業戦略に関する MBA レベルの理解を目標とする。知識としての経営戦略論に留まるのではなく、獲得した知識を用いて都市という場面で「使える」経営戦略を策定できる能力、良い戦略を選択する力を育成したい。そのためには、都市及び都市生活にかかわる製品市場における、各自の（仮定の）経営戦略、事業計画の立案を成果物とする。</p>	
	都市経営・経済	応用都市経済学	<p>都市問題の多くは経済学的なアプローチからその解決の示唆を得ることができる。</p> <p>本講義では都市の土地利用と交通そして環境に関する経済分析の基本的な考え方を習得することを目的としている。都市の土地利用では、世帯や企業の立地行動のモデル化や、個別の立地主体の付け値地代と都市の均衡地代との関係を通して、都市における土地利用分布を説明する。都市交通に関しては、混雑問題や料金の設定問題に関して考察する。都市環境に関しては、環境問題の本質を理解し、その対策に関して経済学的に考察する。最後に、以上の理論モデルに基づく都市シミュレーションモデルの構築とそれを用いた政策手段の効果分析に関しても触れる。講義の進め方は基本的には通常の講義形式であるが、随時、質疑応答を頻繁に行うことにより理解を深めていく。</p>	

# 授 業 科 目 の 概 要

(大学院環境情報学研究科 都市生活学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
都市経営・経済	マーケティング特論	<p>マーケティング及びブランディングの中核的概念を再確認すると共に、今日的な概念を習得し、それらを礎として都市に関するテーマに対する応用力を醸成する事を目的とする。</p> <p>具体的には、マーケティング戦略、STP、マーケティングミックス、ブランド戦略に関しては、知識の再確認とビジネス・ケースによる演習を行う。また、今日的なテーマとしては、「顧客との価値共創」或いは「社会的責任マーケティング」を取り上げ、関連図書と企業事例を通して理解を深める。最後に、包括的な取り組みとして、特定の街或いは大規模商業集積を事例として取り上げ、プレイス・ブランディングの概念的枠組みを適応しながら演習を実施し、実践的な応用力を醸成する。</p>	
	不動産マネジメント論	<p>大学で学んだ、「不動産ファイナンス」講座における、不動産証券化の基礎知識に加えて、上場されて以降のJ-R-E-I-T全般のその後の動きや、私募ファンドや不動産小口化商品等の不動産証券化商品について、マーケットの動きも含めて学習する。J-R-E-I-T個別銘柄のマーケットでの値動きや、統廃合の傾向、機関投資家から見た人気銘柄の変化等も調査する。</p> <p>一方、不動産証券化が、不動産業界全般に与えた影響や、国際的な変化についても研究する。</p>	
	ライフデザイン特論	<p>都市生活者の思想、思考の分析。都市の哲学への視点を学習する。</p> <p>都市生活における可能性を世界視点・地上視点で整理し、都市文化・芸術へのシナリオを学ぶ。生き方、生活の中にある都市の魅力とこれからの世界が都市のネットワークの中で活性化することをツーリズムの視点から学ぶ。</p>	
専門科目	プロジェクトマネジメント特論	<p>建築や都市開発プロジェクトでは、投資家、開発者、設計者、施工者から地域住民、利用者、経営者運営者といったより多くの関係者が様々な場面で関わりながら、経済的成功のみならず社会的・文化的価値創造を目的として開発業務を行う。</p> <p>プロジェクトマネジメント特論では、特区・PPPなどの新しい官民共同、国際的な展開、歴史的価値の再創造、インフラとの複合、企業の社会的責任と収益性の両立、事業のライフサイクルなどの現在進行形あるいは今後の重要課題を縦糸に、企画段階では、従来の事業計画と建築計画の構成・手順の学習にとどまらず、新しいビジネスモデルや開発手法、公共貢献、付加価値など様々な課題を戦略的革新的に解いていく手法・目的を学ぶ。実行段階では、コスト、スケジュール、組織、リスク、デザインのマネジメント要素を統合し、全体を見据えつつ利害調整を行い、横断的統括的に業務をリードして結論を導き出すプロジェクトマネジメント力を育成することを目標とする。</p>	
	ファシリティマネジメント特論	<p>地球環境問題、エネルギー問題や加速する技術革新、少子高齢化問題、多様化するライフスタイルとワークスタイルなど社会・技術・人々の価値観が急速に変わってきている。われわれの活動を支える諸施設のあり方は従来の延長上では考えられない。</p> <p>この講義では施設の所有者・発注者・運営管理者・利用者など建設系以外の立場から、施設の構想から企画・設計・建設プロセス、施設の運営管理についてその体系・手法と次世代施設のあり方について講義する。とくに業務施設(オフィス)を取り上げ、情報化によるワークスタイルの変貌、組織構造と空間構造の関係、オフィス空間の計画法・運営管理法、施設情報統合化システムとその歴史的発展、欧米各国の最新動向、オルターナティブオフィス、ネット上のバーチャルオフィスなど次世代のワークプレイスの概念などについて詳述する。</p>	
	エリアマネジメント特論	<p>これまでの都市づくりが社会資本投資を基礎としたデイベロップメント中心に行われてきたのに対して、近年は社会関係資本構築によるマネジメントが都市づくりにおいても重要視されるようになってきている。そのような動向を特定の地区(エリア)で、地区の地権者を中心に組織化とガイドライン作りなどを行う新しい都市づくり(エリアマネジメント活動)が各地で展開するようになってきている。</p> <p>そこでエリアマネジメントの基礎論を組織、活動内容、財源、制度等に分けて講義するとともに、大都市都心部、地方都市中心部、住宅市街地などのエリアマネジメント活動事例を取り上げ、その動向と活動内容の実際について紹介し、議論を展開する。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

（大学院環境情報学研究科 都市生活学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
都市 マネジ メント	社会基盤 マネジメント論	道路や上下水道等の都市生活を支える上で不可欠な社会基盤のマネジメントを対象として、一連の計画、整備、維持管理・運営に関する基本的な理解とその事業に携わる際に必要な基本的な素養を習得することを目的とする。講義内容は社会基盤に関する基本的知識の再整理にはじまり、経済分析、財務分析、財源およびファイナンス分析、財政支出分析に関する理論と実務への応用、事業化に関わる社会的制度、そして、事業実例の紹介を含む。特に、新しい事業方式であるPFI/PPPや事業リスク分析、財源調達に関する課題等を中心的なテーマとして扱う。講義の進め方は基本的には通常の講義形式であるが、随時、質疑応答を頻繁に行うことにより理解を深めていく。	
	住環境 マネジメント論	低炭素社会の実現に向けて、都市を取り巻く環境は大きく変貌しようとしている。住まいとそこでの暮らしや活動にもハードとソフトの両面において様々な新しい技術や考え方が提案され導入されている。しかし、それらが効果的に機能するためには、人の暮らしや活動の場としての住宅のエネルギー消費特性等を把握し、その特徴を最大限に活かしながら、新しい技術やしくみを適切に調和・融合させる必要がある。一方で、失われつつある伝統技術にも有用な手法が少なくない。 ここでは、環境とエネルギーを中心的視点として、新しい技術や考え方の潮流と伝統技術を解説するとともに、それらがライフスタイルやワークスタイルに調和し住宅に最適化するためのマネジメント手法を論じる。	
専 門 科 目	環境デザイン論	一見便利で快適な現代生活を支える都市の諸システムは、その一方で様々な環境負荷を増大し、地球温暖化や気候変動等、私たちの都市生活基盤そのものを脅かし始めている。「環境デザイン」とは、こうした事態に対処する方法について分野を超えて模索すると同時に、人々の「生活の質」の在り方や意識の問題と常に応答しながら、「持続可能な社会」の構築に資する生活環境づくりを目指す、思想と方法論の体系である。 本講義では、環境デザインの流れ（プレ・デザイン→デザイン→ポスト・デザイン）について自然環境と社会人文環境の学際的な視野から学び、具体的な事例を通してその実態と課題を具体的に検証する。履修生は自らの修士論文のテーマに引き寄せ、講義の流れに沿って3本のレポートを提出し、発表や議論を通して互いに環境デザインの理解を深めるとともに、自らの課題を発見的に展開することを目標とする。	
	空間デザイン特論	空間デザインの対象は様々であり、大きさも機能も目的も多様な系統を形成している。しかし、空間の構成原理や方法には共通する要素や原理も存在する。ここではその共通する要因と、各系ごとの差異について学ぶ。そこには以下のような分野が関わる。視覚や知覚・認知等の生物・心理系/感覚世界の記録・伝達に関わるメディア系/立体一般を構成する方法・技術系/機能を持つ立体空間としての建築・都市空間系/空間要素の連携の様態を巡るネットワーク系/自然界の空間系/構成原理を方法に変えるプログラム系/他。 こうした各系統での空間の特性と、共通する方法・原理を学ぶことを通じて、優れた空間設計を可能にする知識と能力の醸成を目指す。	
	建築デザイン論	建築デザインの形成理由について、都市における住宅から公共施設、都市公園施設などを含む空間と、それを取り巻く様々な分野へ幅広く提案するための理論と実践を理解する。 特に、建築デザインを素材、歴史、風土、社会経済的側面などから考察し、未来のライフスタイルを創造するための可能性を総合的に統合追求することを目的とする。 また、都市生活における文化や経済活動との接点を把握するために、フィールドワークを通じて建築デザインが包含している異分野（例：家具・プロダクトデザイン・グラフィック業界など）との共同作業を実践遂行する能力と、自ら評価する能力を同時に養い、デザイン提案における明確な成り立ち理論付けを目的とする。	

# 授 業 科 目 の 概 要

（大学院環境情報学研究科 都市生活学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考
専門科目  都市デザイン	人間行動空間論	<p>人々がなぜ魅力ある空間に惹きつけられるのか、またそのような都市はどのようなようになっていく必要があるか、人間と都市空間の関係について学ぶ。</p> <p>都市のなかに活気や人気を生み出すものとして、「ひとあつめ」の概念がある。この講義においては、「ひとあつめ」をテーマとした人間の行動に関する研究を行う。いかにして人が集まり、賑わいある空間をつくるかを科学的に分析し、実際に提案していく力を養う。また、魅力的な空間形成を行う上での方策や、戦略について分析を行い、「人間行動と都市空間」の研究に繋げる。例えば魅力ある空間のひとあつめ、美術館・博物館、ひとあつめと都市文化、遊び場空間、都市景観デザインなどを例示しながら考察する。</p>	
	CAD応用論	<p>CAD(Computer aided Design)は、建築の設計者・施工者などの専門家に利用されるケースが今まで中心であったが、BIM (Building Information Modeling) の出現によって、設計プロセスが大きく変わろうとしている。これまで専門家に任せてきたことが、発注者によって企画段階から運用段階に至るプロセスで BIM を用いて様々なシミュレーションを行うことができるようになり、発注者の役割が大きくなろうとしている。</p> <p>この講義ではインテリア・建築・都市を扱う発注者の立場で、CADをどのように利用できるのか、その方法と手法を考究する。人の視覚とデジタル空間との比較から始まり、人がどのようにして空間を把握するかについて考察し、環境計画、避難計画、色彩計画、照明計画、高齢者・障害者に対応した住環境計画などのシミュレーションにCADを応用する考え方と手法について講義する。</p>	
研究指導科目	文献研究Ⅰ	領域毎に、基本的文献・資料を購読・調査し、内容についての討議を通して、研究テーマへの理解を深める。	
	文献研究Ⅱ	文献研究Ⅰの成果を発展させ、研究テーマに直接・間接に関わる文献資料の分析・討議を通して、修士論文の作成に役立たせる。	
	演習Ⅰ	領域毎に、各学生の問題意識と視点にもとづいて、問題の提起と分析、フィールド調査、コンピュータによる解析などを進める。	
	演習Ⅱ	修士論文作成中の学生が抱える問題点を中心にして、調査・分析を進め、発表と討議を行う。	
	特別研究	<p>（概要）</p> <p>研究指導に当たる教員の下で、具体的なテーマを選定し、大学院在学中の研究成果をまとめ、修士論文を作成する。論文の一部として、模型やプログラムなどの作品を加えることもできる。</p> <p>（1 平本 一雄）</p> <p>フィールドワークを多用しながら、街の再生や新しい街区の開発など、魅力的な街を創り出すための計画や方法論を課題とし、研究指導を行う。</p> <p>（2 小林 重敬）</p> <p>新しいまちづくり活動の仕組みであるエリアマネジメント活動について、事例研究や体験・参加を含めながら課題を探索し、研究指導を行う。</p> <p>（3 山口 重之）</p> <p>都市・建築・インテリアのデザインとマネジメントを対象に、BIM (Building Information Management) など、先端的情報技術の利用や応用について課題とし、一部3Dモデル製作などを含めて研究指導を行う。</p> <p>（4 宮本 和明）</p> <p>都市と環境の問題と、社会基盤事業のあり方をテーマとして、持続可能な都市について、各種分析方法を用いながら科学的に探究し、研究指導を行う。</p> <p>（5 坊垣 和明）</p> <p>住まい・建築・都市における快適性や健康性向上のための理論と対応技術の研究を課題とし、各種の関連実験も取り入れながら、研究指導を行う。</p> <p>（6 岩村 和夫）</p> <p>持続可能な都市社会のための「環境と共生する住まい・まちづくり」をテーマとして、企業や官公庁などの社会活動の体験・実践を踏まえながら、研究指導を行う。</p> <p>（7 渡辺 誠）</p> <p>集合住宅・オフィス・学校・図書館・ホール・商業施設など、様々な建築物について、ライフスタイルの変容との関係性も考察しながら、一部模型作成などを含めて研究指導を行う。</p>	